

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/11/01

米政府機関の一部閉鎖の影響を見極め

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	RBAの金融政策スタンスを確認 予想レンジ: 89.800 ~ 96.100 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	来年Q1利上げ観測は織り込み済み? 予想レンジ: 75.800 ~ 83.700 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	南アQ3GDPに注目 予想レンジ: 9.200 ~ 10.300 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



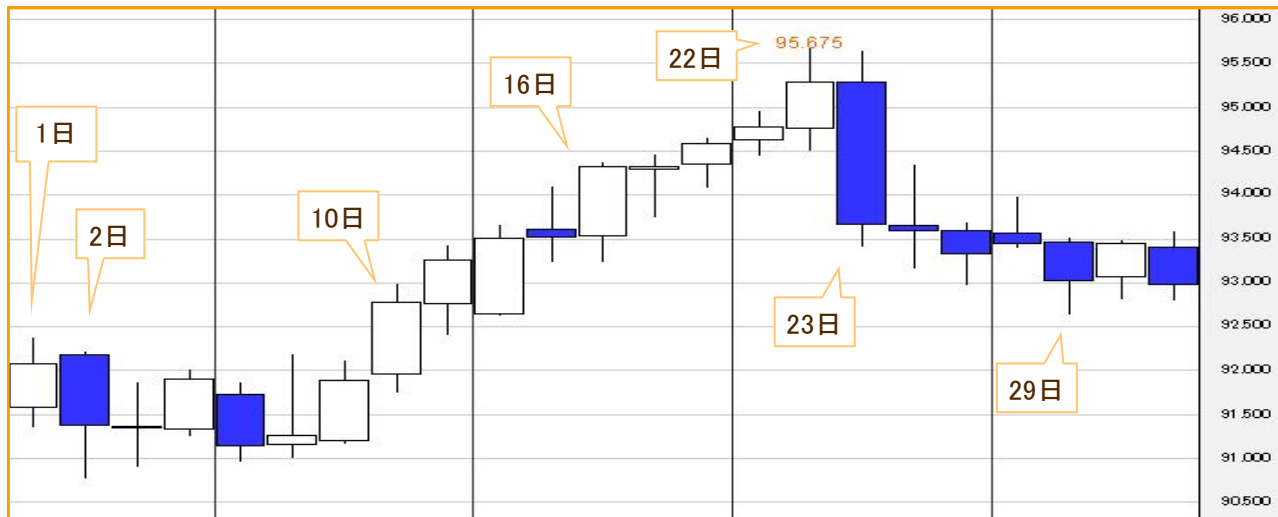
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	91.592円	95.675円	90.794円	92.998円



1日	豪準備銀行(RBA)が金融政策の据え置きと、「金融政策は適切」などとする声明文を発表した事を受け、豪ドル/円は約50銭上昇。その後92.384円まで上値を伸ばした。
2日	豪8月の貿易収支が8.15億豪ドルの赤字と予想(4.00億豪ドルの赤字)より赤字幅が拡大し、住宅建設許可は前月比-4.7%、前年比+7.7%と予想(-0.5%、+12.8%)を下回った。本邦の株安も重石となり、豪ドル/円は下落。NYダウ平均株価のら下落も重石となると、90.794円の安値を記録した。
10日	米与野党が短期間の債務上限引き上げで合意に達するとの期待を受けたドル/円やNYダウ平均株価の上昇を受け、豪ドル/円は92.995円まで上昇した。なお豪9月失業率が5.6%(予想:5.8%)となるも、新規雇用者数が0.91万人増、労働参加率が64.9%といずれも予想(1.50万人増、65.0%)より弱い結果であったため、買いは一時的であった。
16日	「米上院指導部はデフォルト回避に向けた財政協議を再開する」との一部報道を受けて日経平均株価が上昇すると、豪ドル/円は値を上げた。NY市場にて、米上院で与野党が暫定予算案で合意に達した事を受け、米国のデフォルトが回避されるとの見方からNYダウ平均株価が大幅に上昇すると、94.379円まで一段高となった。
22日	予想より弱い米9月雇用統計を受けてドル/円が急落すると、豪ドル/円は一時94.527円まで下落。ただ、その後は米量的緩和の早期縮小観測が後退した事を背景にNYダウ平均株価が上昇すると、95.675円まで急反発となった。
23日	「中国人民銀行の金融政策委員が『人民銀が金融政策を緩やかに引き締める可能性がある』との見解を示した」との一部報道を受けて上海株が下げ足を速めると、日経平均株価も急落。豪ドル/円はこれを嫌気して、ストップを巻き込みながら大きく値を下げた。なお、豪第3四半期消費者物価は前期比+1.2%、前年比+2.2%、基調インフレ率は前年比+2.3%と、いずれも市場予想(+0.8%、+1.2%、+2.2%)を上回った。これを受けてRBAの追加利下げ観測の後退により豪ドルが買われるも、その動きは一時的であった。
29日	スティーブンスRBA総裁が「豪ドルは将来のいずれかの時点で大幅に下落する可能性が高い」との見解を示した事を受け、豪ドル売りが先行。その後、中国当局の資金供給を好感して反発する場面も見られたが一時的となり、上海株が下落に転じると92.660円まで一段安となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

10月の豪ドル/円相場は90.794円～95.675円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.5%の上昇（豪ドル高・円安）となった。上旬こそ米財政協議の混乱を嫌気して軟調に推移するも、その後はRBAの追加利下げ観測の後退や中国経済の持ち直し、米量的緩和（QE）縮小開始の先送り観測を受けた株高により堅調に推移すると、約4カ月ぶりに95円台を回復。ただ、その後は中国の金融引き締め観測がきっかけとなり、上げ幅を縮小する事となった。

今月、豪州ではRBAの理事会や四半期金融政策報告といった、金融政策に関する重要イベントが予定されている。注目点は2つであり、1つは政策スタンスである。前月の声明では利下げ余地を残しつつも、これまでの利下げの効果を見極めると言う「様子見」姿勢を示す中、これらの姿勢に変化がないか注目したい。もう1つはRBA予測である。四半期金融政策報告にて、前回と今回の予測（基調インフレ率：13年末～14年末まで2.25%。GDP：2013年は2.25%、14年半ばは2.50%）に変化があれば、豪ドル相場を動かす手掛かり材料となり得る。RBAの次の一手を確認することで、豪ドル相場の方向性が見えてくるものと推測される。

一方米国では、半月にわたる政府機関の一部閉鎖の影響により、米経済がどの程度ダメージを受けたかを見極めることがポイントとなろう。10月雇用統計を始めとした各種経済指標により、米経済に与える影響は軽微との見方が広まれば、QE縮小開始が3月より前倒しになるとの見方が強まり、株安につながりやすい。豪ドル/円はこれを受けて値を下げる可能性があるので注意したい。

その他、中国の経済指標や第18期中央委員会第3回総会（3中総会）も、相場を動かす手掛かり材料となろう。（川畑）

（予想レンジ：89.800～96.100円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

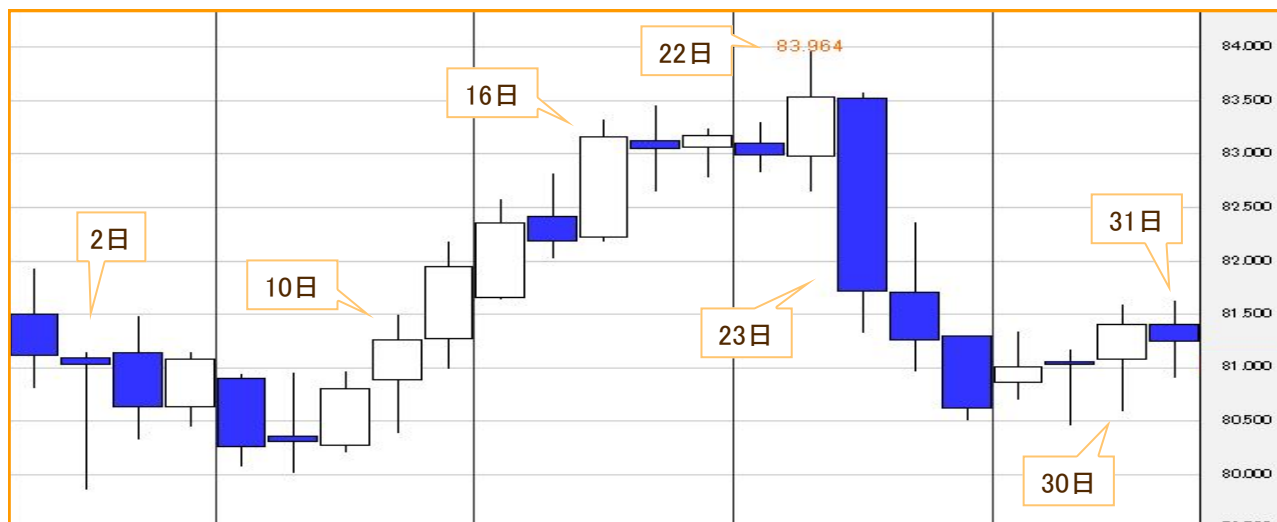
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(金)	第3四半期豪生産者物価指数	11/8(金)	11月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値
	10月中国製造業PMI	11/9(土)	10月中国消費者物価指数
	10月米ISM製造業景況指数		10月中国鉱工業生産
11/3(日)	10月中国非製造業PMI		中国第18期中央委員会第3回総会（～12日）
11/4(月)	9月豪小売売上高	11/14(木)	第3四半期日本GDP・一次速報
11/5(火)	RBAキャシュターゲット	11/15(金)	10月米小売売上高
	10月米ISM非製造業景況指数	11/19(火)	RBA議事録
11/6(水)	9月豪貿易収支	11/20(水)	FOMC議事録（10月29・30日）
11/7(木)	10月豪雇用統計	11/21(木)	11月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
11/8(金)	RBA四半期金融政策報告		日銀金融政策決定会合（20日～発表）
	10月中国貿易収支		
	10月米雇用統計		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	81.510円	83.964円	79.868円	81.255円



2日	米財政協議を巡る不透明感から日経平均株価が下げ幅を拡大したことを嫌気して、NZドル/円は79.868円まで下落。しかし、NY市場後半にNZ準備銀行(RBNZ)のウィーラー総裁が「10月初めから導入された住宅ローン規制が住宅価格を抑制できなければより大幅な利上げが必要になる」「2014年～2016年初めにかけて政策金利を2%引き上げる可能性がある」との見解を示した事を受け、NZドル/円は下げ幅を縮小した。
10日	「米共和党下院議員らは無条件の債務上限6週間引き上げ法案を検討しており、本日にも提出する見込み」との一部報道を受けたドル/円の上昇や、米与野党が短期間の債務上限引き上げで合意に達するとの期待を受けたNYダウ平均株価の大幅上昇を受け、NZドル/円は81.490円まで上昇した。
16日	NZ第3四半期消費者物価は前期比+0.9%、前年比+1.4%といずれも予想(+0.8%、+1.2%)より強い結果となり、NZドル/円は上昇。NY市場にて米上院で与野党が暫定予算案で合意に達した事を受けてNYダウ平均株価が大幅に上昇すると、83.328円まで一段高となった。なお、RBNZのスペンサー副総裁が「ローン資産価値比率(LVR)の高い住宅ローンに対する新規制により利上げの必要性が減り、通貨の上昇圧力が収まる可能性がある」との見方を示したが、市場の反応は薄かった。
22日	予想より弱い米9月雇用統計を受けてドル/円が急落すると、NZドル/円は一時82.665円まで下落。ただ、その後は米量的緩和の早期縮小観測が後退した事を背景にNYダウ平均株価が上昇すると、83.964円まで急反発した。
23日	「中国人民銀行の金融政策委員が『人民銀が金融政策を緩やかに引き締める可能性がある』との見解を示した」との一部報道を受けて上海株が下げ足を速めると、日経平均株価も急落。NZドル/円はこれを嫌気して、ストップを巻き込みながら大きく値を下げた。
30日	格付会社ムーディーズがNZのAAA格付けの引き下げを検討した事が明らかとなり、NZドル/円は80.599円まで下落するも一時的。引け間にRBNZが「予想される住宅・建設セクターからのインフレ圧力の高まりに対応するため、来年利上げが必要になる」とした上、「通貨高が利上げに関して中銀に柔軟性を与えている」とNZドル高について許容姿勢を示した事を受けてNZドル買いが強まり、81.592円まで反発した。
31日	NZ9月住宅建設許可が前月比+1.4%、前回分が上方修正(+1.4%→+1.5%)されたが、市場の反応は薄かった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

10月のNZドル/円相場は79.868円～83.964円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.4%の小幅下落(NZドル安・円高)となった。NZの来年の利上げ期待や中国経済の持ち直し観測、米量的緩和縮小開始の先送り観測を受けた株高により、NZドル/円は5月以来の高値を付けるも節目の84円を前に伸び悩み。その後は中国の金融引き締め観測が浮上した上、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明にて量的緩和の縮小開始が(それまで予想されていた)3月よりも前倒しになるとの観測が浮上した事も重なり、高値圏にあった相場は売り優勢となり、値を下げて取引を終えた。

11月は、約半月に及んだ米政府機関の一部閉鎖により、米経済にどの程度ダメージを与えたか注目したい。10月雇用統計を始めとする経済指標により、米経済への影響が軽微であれば、縮小開始が3月よりも前倒しされるとの見方につながりやすい。その場合は株価の下落が予想され、ここ10年の中で比較的高値圏に位置するNZドル/円相場には下押し圧力が掛かりやすいと見る。

先月、NZでは住宅融資規制が実施されたものの、RBNZが「住宅市場次第で利上げに踏み切る」との見解を示したことで、29日の住宅建設許可を始めとするNZ国内の経済指標に市場の関心が集まる事が予想される。予想より良好な結果となればNZの利上げ期待を一段と高める事となるが、既に来年第1四半期での利上げ開始はかなり織り込まれており、NZドル相場に与えるインパクトは一時的となるかもしれない。

その他、中国では第18期中央委員会第3回総会(3中総会)が開催される。先月、中国の金融引き締め観測がNZドル下落のきっかけとなったのは記憶に新しい。同国内の経済指標と合わせ注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 75.800～83.700円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

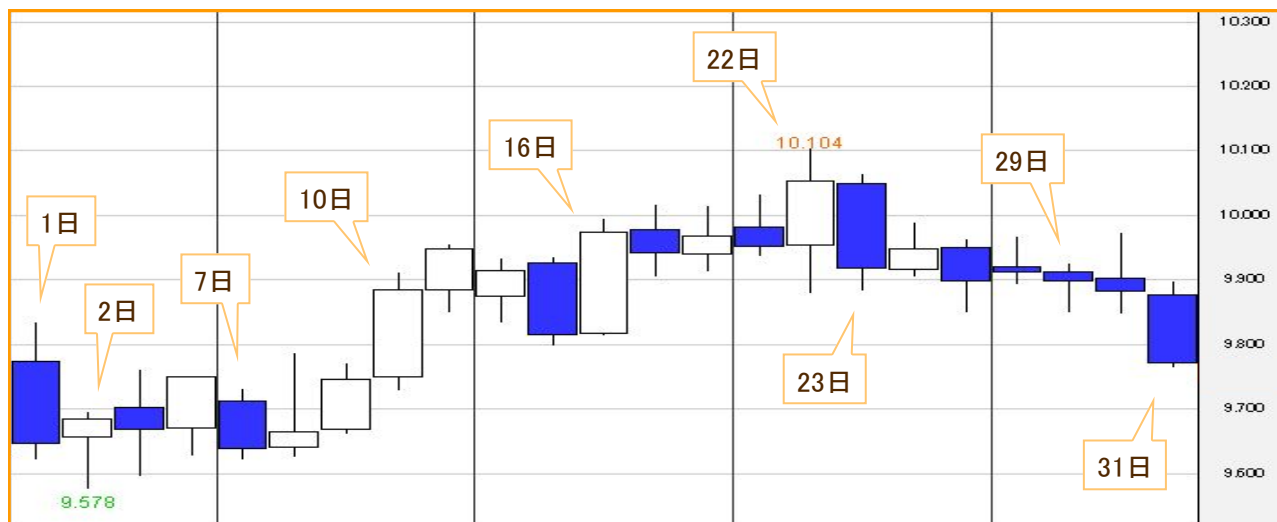
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(金)	10月中国製造業PMI	11/14(木)	第3四半期NZ小売売上高指数
	10月米ISM製造業景況指数		第3四半期日本GDP・一次速報
11/3(日)	10月中国非製造業PMI		10月米小売売上高
11/5(火)	第3四半期NZ失業率	11/20(水)	第3四半期NZ生産者物価
	10月米ISM非製造業景況指数		FOMC議事録(10月29・30日)
11/8(金)	10月中国貿易収支	11/21(木)	11月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	10月米雇用統計		日銀金融政策決定会合(20日～発表)
	11月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	11/26(火)	第3四半期米GDP・改定値
11/9(土)	10月中国消費者物価指数	11/27(水)	10月NZ貿易収支
	10月中国鉱工業生産	11/29(金)	10月NZ住宅建設許可
	中国第18期中央委員会第3回総会(～12日)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.774円	10.104円	9.578円	9.773円



1日	南アフリカ準備銀行(SARB)のマーカス総裁の「南ア経済は潜在成長率を下回っている」との発言を受けてランド売りが優勢となり、ランド/円は9.624円まで下落した。
2日	米財政協議を巡る不透明感から日経平均株価が下げ幅を拡大したことを嫌気して、ランド/円は9.578円の安値を付けた。
7日	ゴードン財務相が「今年の国内総生産(GDP)成長率は目標の2.7%に達しない見通したが、2.0%は下回らないだろう」などと発言するも、市場の反応は限定的であった。
10日	「米共和党下院議員らは無条件の債務上限6週間引き上げ法案を検討しており、本日にも提出する見込み」との一部報道を受けたドル/円の上昇や、米与野党が短期間の債務上限引き上げで合意に達するとの期待を受けたNYダウ平均株価の大幅上昇を受け、ランド/円は9.912円まで上昇した。
16日	「米財政協議について、バイナー米下院議長は上院案の下院審理に合意した」との一部報道を受け、ドル/円やNYダウ平均株価が上昇。これを好感してランド/円は値を上げた。
22日	予想より弱い米9月雇用統計を受けてドル/円が急落すると、ランド/円は一時9.881円まで下落。ただ、その後は米量的緩和の早期縮小観測が後退した事を背景にNYダウ平均株価が上昇すると、10.104円まで急反発した。
23日	「中国人民銀行の金融政策委員が『人民銀が金融政策を緩やかに引き締める可能性がある』との見解を示した」との一部報道を受けて上海株が下げ足を速めると、日経平均株価も急落。これを嫌気してランド/円は一時9.886円まで下落。その後、南ア財務相が発表した暫定予算案にて、スト発生や停電の影響により、今年のGDP見通しを2.1%(従来2.7%)に下方修正する一方、来年3月までの財政赤字の対GDP比を4.2%(同4.6%)に修正したことが好感され、ランド/円が下げ幅を縮小する場面も見られた。なお、南ア9月消費者物価指数は市場予想通り前年比+6.0%となったが、市場の反応は薄かった。
29日	南ア第3四半期失業率が24.7%と市場予想(25.6%)より強い結果となるも、ランド/円は小幅高に留まった。
31日	南ア9月貿易収支は189億ランドの赤字と、市場予想(164億ドルの赤字)より赤字幅が拡大した事を受けてランド/円は小幅に下落。その後NYダウ平均株価の下落が重石となり、9.767円まで一段安となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

10月のランド/円相場は9.578円～10.104円のレンジで推移し、月間の終値ベースではほとんど変化がなかった。中国経済の持ち直し観測、米量的緩和縮小開始の先送り観測を受けた株高により、ランド/円は10.104円まで値を上げるも、10円台で伸び悩み。その後は中国の金融引き締め観測が浮上した上、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明にて量的緩和の縮小開始が(それまで予想されていた)3月よりも前倒しになるとの観測が浮上した事も重なり、上げ幅を縮小した。

11月のランド/円は、引き続き上値の重い展開が予想される。先月30日、SARBは国内のストの悪影響によりGDPが弱い結果となれば、同国が格下げされて資金流出を招く恐れがあるとの見解を示した。先月23日に南ア財務相が今年のGDP目標を下方修正しているが、第3四半期は国内でストが活発化した上、先月発表された9月カギソPMIが3月以来となる50を割り、8月鉱工業生産は予想を下回っている事から、25日に発表される南ア第3四半期GDPには下振れリスクがあると言える。仮に「リスク・オン」で買われたとしても、同じ資源国通貨である豪ドルやカナダドル、利上げ観測のあるNZドルよりも上昇パフォーマンスは劣るだろう。今月はSARBの金融政策発表もあり、GDP見通しについてどのような見解を示すか注目したい。(川畑)

(予想レンジ:9.200～10.300円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(金)	10月中国製造業PMI	11/14(木)	10月米小売売上高
	10月米ISM製造業景況指数	11/20(水)	10月南ア消費者物価指数
11/3(日)	10月中国非製造業PMI		FOMC議事録(10月29・30日)
11/5(火)	10月米ISM非製造業景況指数	11/21(木)	11月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
11/8(金)	10月中国貿易収支		日銀金融政策決定会合(20日～発表)
	10月米雇用統計		SARB政策金利発表
	11月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	11/25(月)	第3四半期南アGDP
11/9(土)	10月中国消費者物価指数	11/26(火)	第3四半期米GDP・改定値
	10月中国鉱工業生産	11/28(木)	10月南ア生産者物価指数
	中国第18期中央委員会第3回総会(～12日)	11/29(金)	10月南ア貿易収支
11/13(水)	9月南ア実質小売売上高		
11/14(木)	第3四半期日本GDP・一次速報		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。